

## 平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立嘉瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

平成27年4月21日(火)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 算数B〕
<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

#### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

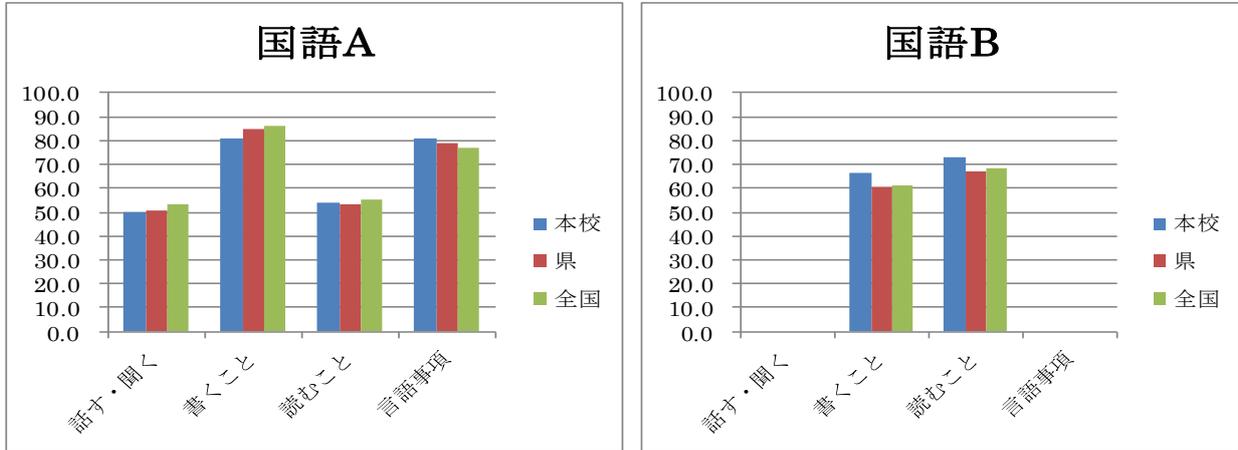
## ■調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果

全体で見ると、国語A、国語Bともに、全国平均、県平均を上回った。

全国及び佐賀県の領域別正答率との比較



#### (2) 課題

##### 話す・聞く

・司会の役割を理解し、立場や意図を捉えながら討論を進めたり、互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見をしたりする力をつけていく必要がある。

##### 書くこと

・目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く力をつける必要がある。

##### 読むこと

・新聞のコラムを読み、表現の仕方として適切なものを選択する問題の正答率がやや低かった。物語文では、登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えられる力をつけていく必要がある。

##### 言語事項

・言語事項については、漢字の読み書きや言葉の意味理解等、いずれの項目も全国平均、県平均を上回っている。継続的な読書や家庭学習の成果が現れていると考えられる。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

朝の「読書タイム」、読書ボランティアによる「読み聞かせ」や「必読図書認定賞」「百冊認定証」の授与、司書や図書委員会による本の紹介など、児童を読書へ誘う活動を継続して行っています。

授業では、「伝え合いの時間」を設定し、友だちに自分の意見を説明しあうことで理解を深めています。また、総合的な学習の時間に国語科で培った力を発揮する機会を設定することで、教科と実生活を関連づけ、意欲をもって主体的に学習に取り組む力の育成を目指しています。

##### 【家庭では】

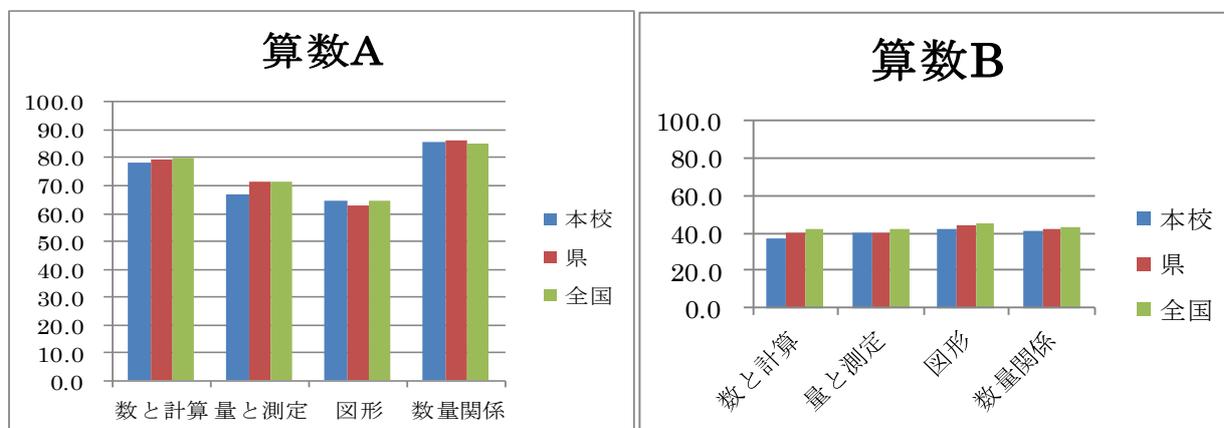
国語の力は、一朝一夕に身につくものではありません。日常的に、継続的に、楽しみながら取り組むことが大切です。これまでのように音読を聞いて、一言感想を言ってあげたり、一緒の空間で、読書をしたり（家読）することが児童の意欲にもつながります。

## 2 算 数

### (1) 結 果

全体で見ると、算数Aでは、全国平均、県平均とほぼ同等であり、算数Bでは、全国平均、県平均を下回った。

全国及び佐賀県の領域別正答率との比較



### (2) 課 題

#### 数と計算

・異分母の分数の減法の計算や除数が整数である場合の分数の除法の計算をする問題の正答率がやや低かった。計算スキル等を活用し、計算の仕方について定着させる必要がある。

#### 量と測定

・分度器を用いて  $180^\circ$  よりも大きい角度を求める問題の正答率が低かった。また、図などを用いながら自分の考えを分かりやすく説明する力をつけていく必要がある。

#### 図 形

・見取図を基に、展開図に必要な面の大きさを読み取ったり、立体図形の辺や面の位置関係を理解したりする問題の正答率が低かった。見取図を基に展開図を書き、立体を作成するなど体験活動を通して立体の位置関係を把握する力を高める必要がある。

#### 数量関係

・比較量と割合から基準量を求める問題の正答率が低かった。単に答えを出すだけではなく、自分の問題の解き方について説明できる力を高める必要がある。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

低学年では、授業の中で、算数科の基礎・基本となる四則計算の力が定着するよう反復練習を行っています。高学年では、更に單元ごとの学習内容の確実な習熟を目指して、毎週月曜日の朝に「すすくテスト」を行っています。また、学年や單元に応じて、少人数やTTなどの学習形態を取り入れ、児童の理解度に応じた指導を行っています。

#### 【家庭では】

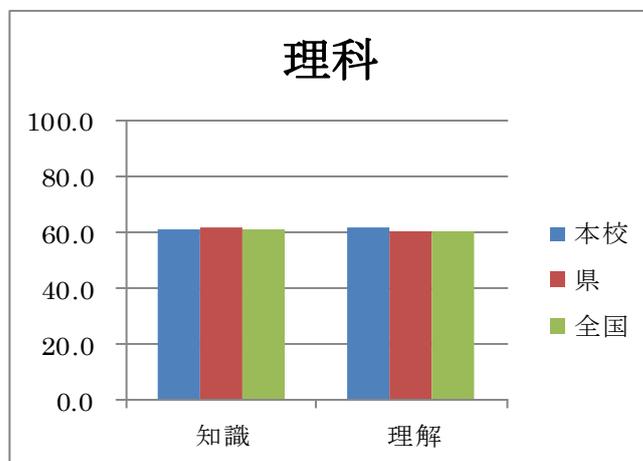
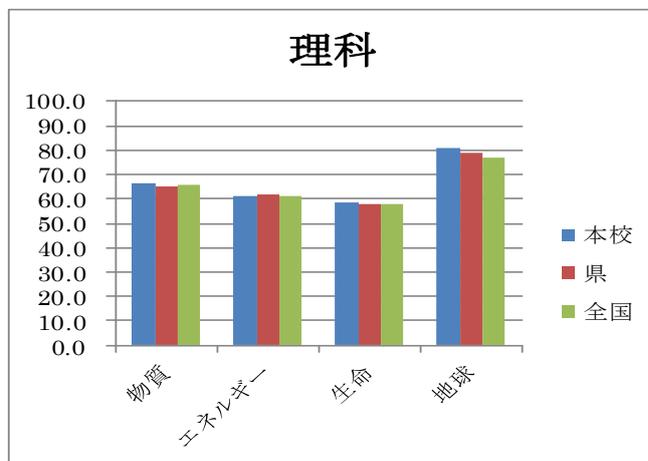
基礎・基本の定着には、反復学習が必要です。反復学習を意欲的に行うためには、生活と関連づけて、算数科の学習が役に立つ体験をすることが大切です。例えば、買い物のときに、100円で買えるお菓子を決めさせたり、九九を使って解決できる問題を出したりするなど、日常的に数字を使う体験をさせることも役に立ちます。

### 3 理科

#### (1) 結果

基礎的な知識を問う問題も活用力を問う問題でもA区分(物質・エネルギー)、B区分(生命・地球)ともに全国平均を上回っている。

全国及び佐賀県正答率との比較



#### (2) 成果と課題

##### A区分(物質・エネルギー)

・振り子時計の調整の仕方を調べる実験について、どんな条件を変えて実験を行えばよいかを問う問題の正答率が低かった。学習過程の中に自分たちで実験の方法を考えてから実験を行うなどの方法をより多く取り入れていく必要がある。

##### B区分(生命・地球)

・メダカの雌雄を見分ける問題や1日の月の位置の変化について問う問題の正答率が低かった。単に事実だけを覚えさせるのではなく、原理原則について考えさせ、理解を深めさせる必要がある。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 理科的なことに関心が向くように理科室や学校の環境の整備を推進します。
- 日常生活と学習で学んだことと実生活との関連を図ることを目指します。
- 授業では、体験学習を重視しながらもICT機器を活用するなどして、分かりやすい授業を行います。

##### 【家庭では】

- 子どもが理科的なことに興味・関心を持ったときに、それにつきあったり、理解を示したりする大人や家族がいることは、理科好きな子に育つことにつながります。お子さんが科学や自然について疑問を持ち、その疑問について質問したり調べたりするときには、ぜひお子さんといっしょに考えたり、調べたりしてください。

## ■調査結果及び考察

### 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果

##### 《生活習慣について》

調査項目	本校平均	県平均	全国平均
学校に行くのは楽しい。	92.9%	86.2%	87.0%
人の役に立つ人間になりたい。	81.0%	72.4%	71.6%
平日平均1時間以上読書をする。	26.2%	16.9%	17.6%
朝食を毎日食べている。	76.2%	87.0%	87.6%
平日平均2時間以上テレビを見る。	61.9%	58.8%	59.2%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	59.5%	76.4%	76.4%

「学校に行くのは楽しい」と答えている児童が9割を超えており、「人の役に立つ人間になりたい」と答えた児童の割合も高かった。意欲的に学校生活を送っていることがうかがえる。1時間以上読書をする児童の割合も全国や県に比べて多かったが、読まないと答えている児童も28.6%おり、2極化している。朝食については、毎日食べている児童が全国平均、県平均よりも少ない。テレビを2時間以上見ていると答えている割合が多く、基本的な生活習慣について見直す必要がある。

##### 《学習習慣について》

調査項目	本校平均	県平均	全国平均
学習の目標とまとめをノートに書いている。	97.6%	93.1%	87.1%
学級の友達と話し合う活動をよく行っている	90.5%	84.8%	85.2%
授業で分からないことがあったら先生に尋ねる。	42.8%	25.7%	24.8%
平日平均1時間以上、勉強をしている。	50.0%	59.6%	62.7%
平日勉強をまったく勉強をしていない。	11.9%	3.5%	3.0%
自分で計画を立てて勉強をしている。	38.1%	62.3%	62.8%

授業では、目標やまとめをきちんとノートに書くなど学習方法が定着しており、話し合い活動も積極的に行うことができている。また、授業で分からないことをそのままにしておかないなど意欲的に学習に取り組むことができている。

家庭学習の様子を見てみると、平日勉強をまったくしないと答えている児童が約1割と全国や県に比べて割合が多いことが気になる。自分で計画を立てて勉強をすることができるように支援していく必要がある。

#### (2) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

「学習のすすめ」にもあるように、宿題には、家庭学習の習慣化や自己学習力をつけるというねらいがあります。高学年になるにつれて、自分で考えて学習に取り組む課題を多くしていきます。また、児童の学習意欲が持続するように宿題に目を通し、コメントを書いたり直接声をかけたりしています。

##### 【家庭では】

児童が、何事にも意欲的に取り組むためには、良い生活習慣を身につけさせることがとても大切です。また、自分で学習に取り組む習慣が身につくまでは、目の届く範囲で、家庭学習に取り組ませることも大切です。良い習慣づけを学校と連携して行うため、宿題や連絡帳にサインをしてください。